

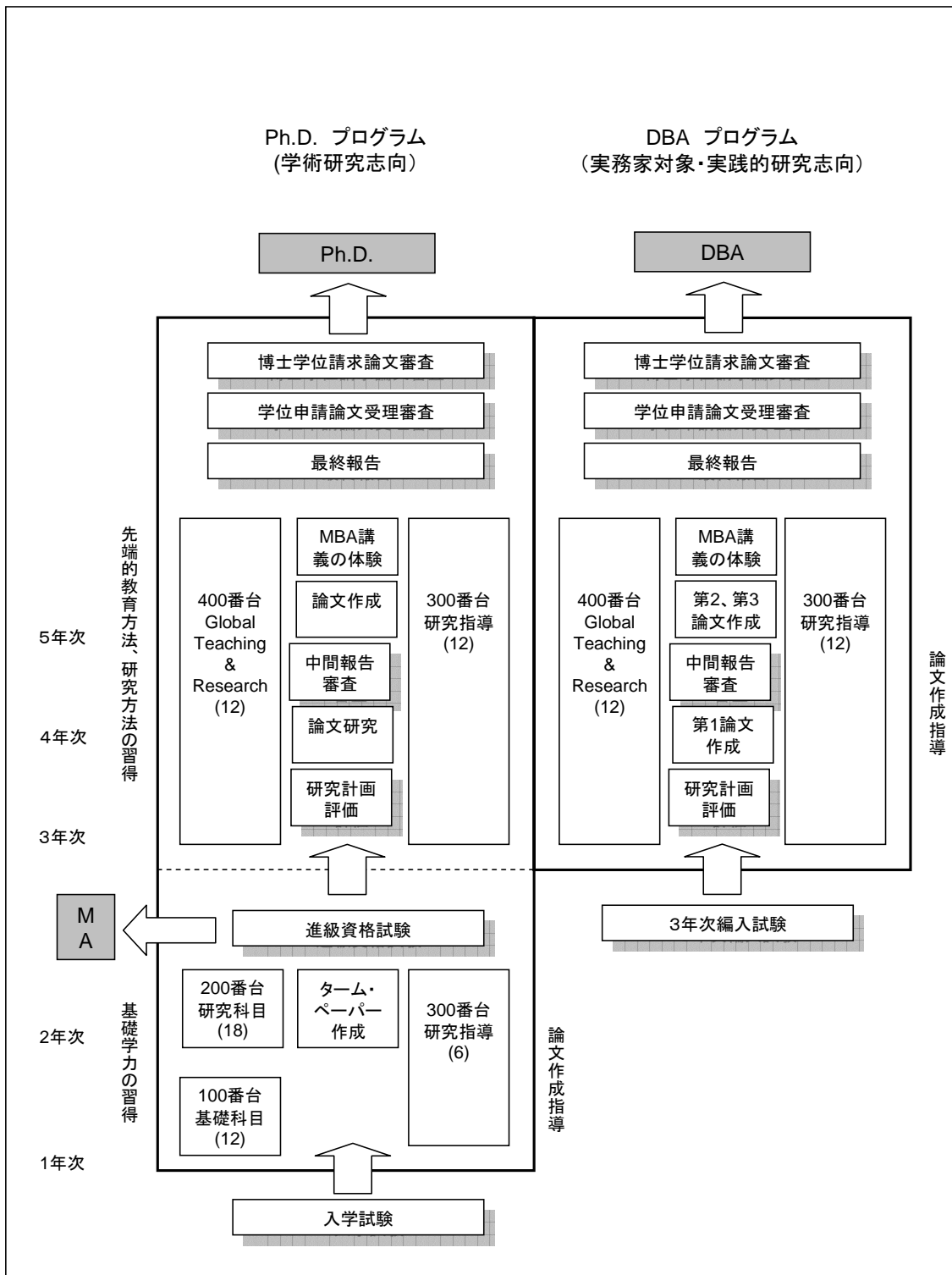
平成18年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成18年4月現在)を抜粋

機 関 名	青山学院大学	整理番号	d012
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	国際マネジメント実践的研究者育成		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 経営学、商学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (企業経営、経営管理、経営財務、マーケティング)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 (〔 〕書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 国際マネジメント研究科国際マネジメント・サイエンス専攻 〔博士課程一貫制〕	研究科長(取組代表者)の氏名 伊藤 文雄	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像(わかりやすく、具体的に記入してください。)			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>青山学院大学の教育研究理念は、「地の塩、世の光」として社会に奉仕する人材の育成をミッションとし、「青山学院教育方針」並びに「青山学院大学の教育理念」の中でこれを謳っている。本教育プログラムは、この理念を実現するために、地球規模の視野に基づく正しい認識と、「国際性」、「専門性」、「人間性」、「創造性」を身に付け、国際社会の持続的発展に奉仕する若手研究者の育成を目指すものである。</p> <p>本教育プログラムを推進していく上で、青山学院大学は、「総合研究所」、「情報科学研究センター」、「外国語ラボラトリー」、「国際交流センター」及び「WTO研究センター」を置くと共に、国際マネジメント研究科内には、「研究科附置国際マネジメント学術フロンティアセンター」を設置する等、全学的な支援体制を擁立している。これらの支援体制の中で、国際マネジメント研究科は平成17年度文部科学省「大学教育の国際化推進プログラム(戦略的国際連携支援)」の支援を得て、海外連携校とのGlobal Knowledge Networkを構築し、国際性に富む教育研究アプローチを推進するための体制を整備してきた。本教育プログラムの目指す国際社会の発展に奉仕する“創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者”の育成は、本学大学院教育の実質化をもたらす取組として期待され、大学院教育の質の高度化を図る先導的モデルとして今後も戦略的に支援していく所存である。</p>			

機 関 名	青山学院大学	整理番号	d012
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(これまでの改善点と、今後の課題について)</p> <p>本研究科は、平成13年4月、国際政治経済学研究科から分離独立し、基礎となる学部を持たない、修士課程と博士後期課程とから構成される、私学では最初の専門大学院として開設された。この発展的改組の中で、博士後期課程においては、若手研究者の育成を目指すPh.D.プログラムと、企業等組織の研究者を養成するDBAプログラムを開発し、Ph.D.プログラムでは博士(国際経営学)、DBAプログラムでは博士(経営管理)の学位を授与することとし、平成15年、16年には博士(国際経営学)と博士(経営管理)をそれぞれ1名ずつ、さらに平成17年には博士(経営管理)1名の学位を授与してきた。これらの学位取得者5名のうち、3名は他大学の研究職に就いており、他2名は企業等組織の研究職として活躍している。このように一研究科一専攻体制の中でPh.D.プログラムとDBAプログラムを有することは、本研究科のミッションに根ざすものであり、人社系大学院教育における革新的な事例であることを自負する。今後の課題としては、経済のグローバル化が急速に進展していく中、本Ph.D.プログラムとDBAプログラムを相互に有機的な関連を持つ教育研究課程として実質化させ、理論と実践の融合を実現する若手研究者を育成し、以て人社系大学院教育の実質化への先導的・中心的役割を果たす存在として展開していくことを目指す。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(5-(2)を踏まえた大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組、発展的展開のための計画、及びこの取組によって改善が期待される点について)</p> <p>本研究科は13年度開設以来過去5年間に5名の課程博士を輩出してきたが、この間、常に博士課程教育の改良・イノベーションを実現し、時代の要請に応える大学院教育の実質化に取り組んできた。本教育プログラムでは、第一に①コアプログラムによる教育システムの一層の強化を図り、高度の素養を身に付けた基礎研究能力を育成すると共に、研究演習による研究論文作成指導を行う。②制度化された研究指導プロセスと公開研究指導システムの導入により、学生間の競争的研究環境を醸成し、学位論文のクオリティマネジメントを徹底していく。③海外連携校とのネットワークを活用し、国際的な研究機会を創出し、先端的な研究領域の発見に導く。</p> <p>第二に、コアプログラムをベースに、学生の研究能力の一層の高度化を図るために、独自の「期待プログラム」を推進していく。このプログラムにおいて、①海外大学より招聘した客員教授の先端的な研究領域に触れる機会を創出し、研究の国際化を実現していく。②国際学会への参加を促すと共に、国際学会での発表能力を育成することにより、博士論文の研究水準を国際的水準にまで引き上げていく。③Global Action Teaching & Researchを配置し、理論と実践との架橋を実験する教育研究の機会を与え、国際マネジメントの実証的な研究深化を図る。これらの取組により国際的に通用しうる研究者養成を実現する。</p>			

6. 履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



機 関 名

青山学院大学

整理番号

d012

<審査結果の概要及び採択理由>

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化(教育の課程の組織的な展開の強化)を推進することを目的としています。

本事業の趣旨に照らし、

①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか

②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか

の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。

なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。

[特に優れた点、改善を要する点等]

- ・構想は体系化されており、ターゲットが絞れた教育プログラムになっている。
- ・アジアMBA育成に関してこれまでに十分な実績があり、大学の支援体制も整っている。プログラムを推進するためのきめ細かいシステムが設定されており、今後PhDおよびDBAプログラムの推進が期待できる。
- ・ただし、「国際性」というアイデアを実体化するための工夫が、海外提携校との合同発表会、海外からの招聘など、外的リソースに依存しすぎている印象があるため、2年間の事業終了後の継続的展望を明確にすることが望まれる。